

## 短期研修に参加して

総合管理学部総合管理学科4年 森田恵未

今回韓国短期研修に参加し、私は祥明大学の学生の家でホームステイを経験しました。本来ならば日本語文学科の学生との交流ということですが、私は奇遇にもロシア語文学科の学生による受け入れとなりました。また彼女は大学近くで一人暮らしをしており、ほぼ共通言語のない2人の8日間を過ごしました。

この研修プログラムは非常に充実しており、本当に楽しかったです。ここでは私が特に印象に残った3点について主観的ではありますが述べていきます。

- 韓国独立記念館見学

これは日本と韓国の歴史を知る上で非常に重要な役割を持つと思います。私が知らない事実も多くある中、韓国では小学校の遠足で行くほど周知の事実であり、歴史教育が徹底していました。しかし韓国の学生はその事実を受け入れながらも現在の日本に親しみを持っている人が多く、よく日本で報道される反日の話は一つの側面に過ぎないように感じました。このように直に価値観などを話し合えるのは研修ならではの経験だと思います。



ちなみにこの日韓国の小学生も見学に来ていましたが、彼らのお弁当はおむすびではなくキムパプ(韓国の海苔巻きご飯)で、当然ながらここにも文化の違いを知りました。

- 日本語文学科の授業聴講

祥明大学の3,4年生が履修している授業を聴講しました。日本語の音声学に関する授業でしたが、先生がほぼ日本語で授業してくださったため内容を理解することができました。それを理解できる祥明大学の学生も優秀だと思います。母語を客観的に学ぶ機会なんてないので授業はとても新鮮で、よく考えてみると日本人が英語の発音で苦労するように、韓国人も日本語の発音が難しいようです。また韓国の学生から「じ」と「ぢ」の違いや一人称で「うち」と使うのはだめなのかといった質問を受けたりもして、母語を無意識で使っていることに気付きました。

- ホストファミリーとの生活

プログラム外での時間はホストファミリーと自由に過ごしてよく、様々な所に連れて行ってもらいました。ロシア語文学科や他大学のホストファミリーの友達にも

会い、みんなとても親切で一生懸命日本語で話そうとしてくれました。日本が好きで日本語を独学で学んでいる人もおり、同年代の人達とカタコトながらお茶したりカラオケに行ったり別の大学に遊びに行っ



たりと、リアルな文化交流ができました。

ここに日本人はいません

また週末にはホストファミリーの実家に行きました。とても栄えたソウル市や祥明大学のある天安市とはまた違った田舎町という感じで、韓国の都会と地方のどちらも見ることができました。ホストファミリーの実家ではいきなり来た日本人の私にとってもよくしてくださり、こんなにもらって良いのかと思うほどお土産までいただきました。言葉が通じなくてもおもてなしをしてくださる気持ちがひしひしと伝わり、素敵な文化だと感じました。

言葉がほとんど通じなくてもこのように有意義な8日間を送れたのは私たち2人をサポートしてくれた日本語文学科の学生達のおかげです。内容だけでなく気持ちなどの意思疎通まで考えてくれて、正直なところホストファミリーと意思疎通がうまくいかずお互いにストレスが溜まった時にも適切にサポートしてくれました。そして何より受け入れをしてくれたホストファミリーと互いが一生懸命理解し合おうとする気持ちにより、なんとか2人で生活することができたと思っています。研修のプログラムで学んだことももちろん数多くありました。加えて私は今回の研修で言葉が通じないというある意味極限状態に置かれたことで自分の欠点がたくさん見えたし、困難を乗り越えられたという自信もつきました。このような自己分析が就活前にできていたら良かったのですが(笑)これから様々な価値観を持った人達と根気強く接する



トッポoggi+ラーメン=ラッポoggi

仕事をしていく上で、この経験は本当に自分を成長させることができたと思います。得たものは一般的ではないかもしれませんが、総じて私はこの研修に参加することができて心から良かったと思いますし、これからもたくさんの県大生と祥明大学の学生が交流できると良いなと思います。